

視察報告書 2年10月28作成 保守の会 吉田つとむ

調査事項 4 「新型コロナ感染拡大と今後の地域経済～
支えあいから再興へ～」

講師：吉原毅氏（城南信用金庫顧問）

清溪セミナーの募集チラシの人物紹介には、次のように書いてありました。

東日本大震災後、被災地支援を勢力的に同時に原発に頼らない安心できる社会を目指して「脱原発」を宣言。17年に全国組織「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」を創設。

また、この講義の進行役を深沢ひろふみ議員と私が担当しました。大半、深沢ひろふみ議員が話すことになりましたが、その中で、城南信用金庫は東日本大震災に際して、被災地に3億円を寄付したことは、また、熊本大地震などにも1億円を寄付し、3メガバンクを上回る支援を行ったことを紹介しています。





講演には、川本恭治理事長も、参加者席で視聴されました。



講演前に、控室で、吉原毅 元理事長と記念撮影



昼食時に、川本恭治理事長が一言挨拶、城南信金の取り組みを紹介されました。



会場の全景ですが、別の講義風景を、私が撮影したものです。

<所感>

吉原毅元理事長の講演では、「脱原発」の視点が強調されました。私のその日の関心とは異なった点があったので、ここでは、関心が起きたもの、あるいは疑問点を記していきます。

そもそも、信用金庫とはなにか、銀行とどのような点が異なるかと言うものでした。

ある意味、答えは単純で、銀行は営利を追求するし、その営利を株主への還元が目的となります。他方で、信用金庫は会員が出資した協同組織で営利を追求しないとされています。

つまり、銀行が株式会社の営利法人で、信用金庫は会員の出資による協同組織の非営利法人とされています。

銀行はとにかく制限が無く利益を生み出すことができるのに対し、信用金庫は会員の事業規模が制限されています。単純に言えば、会員になる資格になるのは、従業員数や資本金の規模に制限があるというものです。また、信用金庫の預金は制限がないが、融資は会員を対象にするとのことでした。

思うに、形態は地域密着と言うもので、いわゆる「地産地消」取引が最も得意とする分野ではないでしょうか。

信用金庫は地域限定であり、名前の通り、城南信用金庫は東京の南西部のそのまた限られ

た地域に集中展開しており、神奈川県では横浜市内に集中しています。創設時より、日本一の規模の信用金庫が城南信金でしたが、他に合併してできた京都中央（京都）信用金庫に次いで、第2位になっています。

かなり以前に、ニュース情報で聞いたことで、城南信用金庫が普通銀行にならない（移行しない）金融機関として名が売れたことがありました。そうした意味のことをまだ理解をしたとは言い難いのですが、信用金庫の設立、運営が協同組合で成り立っていることがその基底にあるのではないのでしょうか。

吉原毅氏は、「相互扶助」を強調されました。資本と営利で世の中が成り立っている考える時代に、公益事業の意義を言葉に出せることが異彩だと思いました。

さらに、自治体とのかかわりがどのようなものかも、これから研究したいと思います。

*町田市内に、城南信用金庫の支店が5店舗あります。